

## 江東区認知症高齢者 SOS 訓練 ～みんなで支えよう！認知症にやさしいまち～

東京都認知症介護指導者 佐藤 利弘

キーワード: 認知症 行方不明搜索模擬訓練 広域連携  
多職種連携

### 活動の概要(活動の主体:江東区グループホーム・小規模多機能連絡会)

#### 【活動目的】

江東区グループホーム・小規模多機能連会(以下、連絡会)、長寿サポートセンター(以下、包括)、江東区地域ケア推進課(以下、行政)で「認知症になっても地域で住み続けられるやさしいまちづくり」を行う。

#### 【活動内容】

連絡会を中心に包括や行政、医療、警察、区内外から広く関係者と連携し、認知症高齢者の行方不明搜索模擬訓練を実施した。

### 活動のきっかけ、背景(指導者として・江東区グループホーム・小規模多機能連絡会代表としての立場で)

連絡会は、区内の19のグループホームと4つの小規模多機能事業所で構成する専門職団体です。また、地域密着型サービスで働く認知症ケアの専門職として、地域に技術還元を図ることを一つの目的としている。更には新オレンジプランで「グループホームには地域における認知症ケアの拠点としての機能」が求められていることをきっかけに認知症高齢者の行方不明搜索模擬訓練を企画した。当初今回の活動は、認知症の人を知ってもらい取り組みの一つとして企画した。企画後に、包括や行政等へ協力要請や意見交換をしていくうちに「認知症になっても地域で住み続けられるやさしいまちづくり」というテーマが見えてきた。そこで、意見交換をしてきた包括や行政と協力して今回の活動を行うに至った。

### 活動の経過と成果

#### 【活動の経過】

第1回は平成30年12月1日、第2回は令和元年11月2日に開催している。第3回予定の令和2年は、COVID-19の影響で開催を見送った。

連絡会(各事業所管理者、職員)と包括で共催、行政も加わり開催した。また、当日の参加は、区報で公募した区民、そして、他サービスの介護事業所職員、医師会、警察署職員、区議会議員、一般企業なども参加した。第2回では、認知症家族の講演や区外の介護事業所も運営に加わった。

共に、100名近い規模で開催の為、参加者の不測の事態に対して看護体制作りや開催中の怪我に対して保険に加入する等配慮した。また、多職種での開催であるため、活動の目的がぶれないよう事前説明会を開催して運営側の意識の共有を図った。

#### 【活動の成果】

第1回は運営、参加含めて85名、第2回は86名が参加した。参加者からは様々な意見があった。「機器を使った発見はできても、認知症の人と話すのが難しい」「認知症のことを知らな過ぎた」という意見や「まち全体の取り組みが必要」「施設の中だけでなくこのような活動をすることで、自身の仕事の重要性を改めて理解した」「こんな活動がもっと広まればいいなと思いました」「このような取り組みは、きっと認知症だけではなく障害などもっと様々なことに転用できますよね」「いろいろな人と話して勉強になった」等々意見があった。

### 今後の展望

それぞれの地域で認知症高齢者の行方不明搜索模擬訓練は行われている。しかし、認知症の人の行方不明や事故は一部地域内だけではなく、地域を越えた広い範囲で起こっている。今後も各地域で行方不明搜索模擬訓練を行うことは有効だとは思う。一方我々は、広く隣接地域からの参加を呼びかけることで、広範囲の人たちと搜索模擬訓練を行っていきたいと考えている。広範囲に訓練を行うことで、他地域との連携や交流も広がり、より多くの情報共有がなされることで、認知症の人のリスクを早期に回避することにつながると思う。第2回目では、区外地域の介護事業所へも声を掛けており、今後も地域を越えた広範囲な取り組みを行いたい。